

# 「元に戻る」

～だんだんズレていませんか？～

ネヘミヤ 13章 1節～31節

私たちは自分がみるべきものが見えているでしょうか？目が節穴になっていないでしょうか？節穴とは見るべきものが見えない状態のことです。そして聖書では自らが見えていないことを罪と言う言葉で現しています。ネヘミヤはエルサレムの城壁を再建する志を神様から与えられました。ネヘミヤの志の出発点はイスラエルの民を愛する思いでした。そしてネヘミヤには沢山の同志が与えられ、この仕事を成し遂げることができました。ネヘミヤがこのように出来たのはスタート（志）が良かったからです。モアブ人（ロトと姉娘の子孫）とアモン人（ロトと末娘の子孫）はその始まりが間違っていました。（創世記 19章 30節～38節）最初にズレた決断をして始めるとずっとズレます。イスラエルの民も城壁が再建されてそこそこ上手くいっていましたが、しかし本当の志が保たれていなかったのでしょうか？そして、あなたの 10 年前はどうだったのでしょうか？最初の志が今も保たれているのでしょうか？

私たちは自らを振り返って最初の志が上手くいっているかを見極めなければいけません。そしてまあまあ上手くいっているならそれを壊す必要がありません。本当に上手くいっているなら良いが、まあまあ上手くいっているのは最初の志が保たれていないということです。その人の人生において播るがしてはならないものが違えばそれは上手くいきません。何を目的に生きようとするかの価値観が違えばズレていきます。その価値観の違いが神様ならば存在の根源がズレてしまいます。何が間違っているかがわからないと元にもできません。戻るためには悔い改めが必要です。1 日一度、自分を省みないとはいけません。聖書を読んで自分の間違っている事を知らなければいけません。ネヘミヤは自分から神様が離れたらどうなるか良くわかっていたので、何度も神様に祈りました。私たちも神様から離れないために自分を省みて祈る必要があります。

## ①戻すのは自分の内である 内側を保つ 間違った価値観 モアブ アモン

（ネヘ 13:1～2）その日、民に聞こえるように、モーセの書が朗読されたが、その中に、アモン人とモアブ人は決して神の集会に加わってはならない、と書かれているのが見つかった。それは、彼らがパンと水をもってイスラエル人を迎えず、かえって彼らをのろうためにバラムを雇ったからである。しかし、私たちの神はそのろいを祝福に変えられた。（民数記 22 章～24 章参照）

モアブ人やアモン人と付き合いことは本物の神様の教えを変えてしまいます。だからこれほど厳しい言葉が語られました。当時、家ごとに宗教があって、それを曲げることはありませんでした。それぞれが自分たちに都合の良い神を作っていました。人の思いで平和を保とうとしたことで、イスラエルの民は大切なものを失っていきます。人間的な気遣いは相手を喜ばそうとするものです。そしてこの気遣いの故に神殿の大切な部屋をトビヤに明け渡してしまいました（13 章 4 節 5 節）。聖書の原則は愛です。愛と気遣いは大きく異なります。神殿の大切な部屋をトビヤに与えた結果、神殿で奉仕するレビ人たちは本来の働きを続けることが出来なくなってエルサレムから離れてしまいました。「変えてはならないものを絶対に変えてはならない」事をネヘミヤ記を通して神様は伝えておられます。

## ②神殿を清める 自分の思いを取り去る トビヤ

「トビヤ」はいてはいけないところにいました。自分の心に住むトビヤを探りましょう。あなたは教会を愛しています。教会とはあなたのことです。あなたは本当にあなたを愛していますか？自らの生活の中に「トビヤ」を入れていませんか？それを中に入れたのはあなたです。「トビヤ」とは神様を取り去る第 2 番目のものです。2 番目のものは 1 番大切なものに反対します。自分の思い（トビヤ）が思い通りにならないとそれを破壊しようとする心（自尊心）がわき起こります。自尊心は本当に大事なものを切り裂こうとします。それが教会を分裂させ夫婦関係や人間関係を壊すすべてを駄目にしてしまいます。ネヘミヤが城壁を再建しようとしたとき大反対したのがトビヤです。祭司エリヤシブはそのトビヤとの関係を平和に保とうと人間的に務めました。そして優先順位が崩され定期ました。その結果、エルサレムの中心にトビヤを住まわせてしま

## ③礼拝と捧げ物の回復 主よどうか私を！！

礼拝を重んじる行為で祝福されないことはありません。礼拝は人が本来の姿に戻ることに出来るときでもあります。ネヘミヤはそのことをわからせるために 13 章を残しました。礼拝とは神様をあがめる行為です。神様は礼拝をとて意味のあるものにされました。神様を 1 番にすると人間の方法では得られない祝福を得ることが出来ます。神様の方法は人の目には愚かに見える方法です。しかし神様は人の考える合理的な手段で事を進めてはいけなと言われます。神様は「あなた自身の問題をわかるように」と言われます。何度も同じ過ちに陥らないためにその問題点を知りなさいと言われます。神様は何度でもあなたと向き合われます。だから今日、その問題に気づき直さなければいけません。あなたは順序を間違えて何かをしようとしていませんか？あせって物事を進めようとしていませんか？問題が起きたとき都合良く捉えないでください。その問題を見極めなければその問題はあなたを変えるものにはなりません。あなたが志を持って始めたことがまあまあ上手くいっているなら、それを神様に返してください。本当に神様の目的を果たす方法をもう一度探らなければなりません。土台はズレていないのでしょうか？ネヘミヤが伝えたかったのは、礼拝と什一献金と神殿の回復を人生の回復です。死海に何を求めても出てきません。神様の元に帰りましょう。

主よ、わたしをあなたの平和の道具としてください。  
憎しみのある所に、愛を置かせてください。  
侮辱のある所に、許しを置かせてください。  
分裂のある所に、和合を置かせてください。  
誤りのある所に、真実を置かせてください。  
疑いのある所に、信頼を置かせてください。  
絶望のある所に、希望を置かせてください。  
闇のある所に、あなたの光を置かせてください。  
悲しみのある所に、喜びを置かせてください。  
主よ、慰められるよりも慰め、理解されるより理解し、愛されるよりも愛することを求めさせてください。  
なぜならば、与えることで人は受け取り、忘れられることで人は見出し、許すことで人は許され、死ぬことで人は永遠の命に復活するからです。

（要約者：日名 洋）

（2019年3月3日）